

令和5年4月1日
校長 決定

令和5年度東京都立足立東高等学校 学校経営計画

1 目指す学校像

(1) 学校の教育目標

『心身ともに健康で、知性と感性に富む人間性豊かな都民を育成する』ために特に次の目標を掲げてその実現に努める。

知性を磨く 思いやりの心を育む 身体を鍛える 自主自律の精神を養う 創造性を培う

スローガン 「元気・本気・やる気の足立東高校」

(2) 目指す学校像（スクール・ミッションと3つのポリシー）

スクール・ミッション

「心身ともに健康で、知性と感性に富む人間性豊かな都民の育成を目指して、学び直しを原点としながら基礎学力の定着と生き抜く力を育む教育活動により、基本的な生活習慣を身に付け自己管理ができる人材、社会性や規範意識をもち、身に付けた知識・技能を活用して課題に対応し地域に貢献できる人材を育成します。」

アドミッション・ポリシー

次に当てはまる『元気・本気・やる気』にあふれた生徒の入学を期待する。

- ① 学び直しに取り組み、基礎学力を身に付けようとする生徒
- ② 基本的な生活習慣を身に付け、規則をきちんと守って生活しようとする生徒
- ③ 学校行事や部活動などに意欲的に取り組もうとする生徒
- ④ 体験学習やキャリアガイダンスなどの特色ある学習に積極的に取り組もうとする生徒
- ⑤ ボランティア活動や地域行事などに積極的に参加しようとする生徒

カリキュラム・ポリシー

足立東高校では、以下の教育活動を中心に実践する

- ① エンカレッジスクールとして学び直しを重視し、基礎学力の定着を図る。
- ② 30分授業、習熟度別授業、少人数授業などにより学力の向上を図る。
- ③ スタディガイダンスにより、義務教育段階の学習内容の確実な定着を図る。
- ④ キャリアガイダンスを組織的かつ計画的に実施し、進路実現を図る。

- ⑤ 多様な体験学習講座を設定し、地域と連携した特色ある教育の推進を図る。

グラデュエーション・ポリシー

足立東高校を卒業すると、こんな力が身に付く。

- ① 学び直しを通して知性を磨き、生きる力につながる学力を身に付けることができる。
- ② 思いやりの心とコミュニケーション力をもって、他者と協働することができる。
- ③ 自らを律し、創造性をもとに、生涯にわたり目標に向かって取り組むことができる。

2 中期的目標と方策・・・『リスタディ（学び直し）&スキルアップ』

本校は、エンカレッジスクールとして学校形態を再編して今年度で21年目を迎える。この間、「エンカレッジの王道」として一貫して「学び直し」に取り組み、特色ある教育活動を展開してきた。また、令和元年度から進めてきた東京都教育委員会指定「学びの基盤」プロジェクト研究協力校も最終年度を迎え、そして新たに今年度から「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム」事業の一環として「スキルアップ推進校」の指定を受けることとなった。

これらの流れをふまえて、今後の本校の学校経営の根幹を『リスタディ（学び直し）&スキルアップ』して仕切り直し、新たな方向性に向けて舵を切る。従来から脈々と受け継がれてきた「エンカレッジスクールとしての王道」を堅守しつつも、生徒一人一人のグローバルスキル・デジタルスキル・コミュニケーションスキルを高め、基礎学力の定着とともに将来に向けた社会的実践力の獲得に向けて、生徒を励ましながらか支援し、力付けていく。

(1) エンカレッジスクールとしての王道

- ① 30分授業、習熟度別授業、少人数授業によって生徒の個に応じたきめ細かな学習指導を行い、確かな学力の定着を図る。
- ② キャリアガイダンスを組織的・計画的に実施して勤労観を育て、進路実現に向けた意識を向上させる。
- ③ 多様な体験学習を設定し、外部人材や地域との連携を深めて特色ある教育を推進するとともに、探究心を喚起し、生徒の将来につながる自己肯定感や自己有用感を涵養する。
- ④ 学校行事、部活動、生徒会活動の活性化を図って自主・自立の精神を育てるとともに、達成感や成就感をもたせる。
- ⑤ 態度教育に重点を置き、基本的な生活習慣、社会性と規範意識を身に付けさせる。

(2) リスタディ（学び直し）…『脱D3』（できない生徒をできないまま卒業させない）

- ① 「学びの基盤」プロジェクト等を活用し、AI時代を見据え、社会人としてよりよく生き

る力を身に付けるために「読解力」と「自ら学ぶ力」を育成する。

②「マナトレ」を活用してスタディ・ガイダンス（朝の10分授業）を組織的・系統的に実施し、義務教育段階からの確実な「学び直し」を図る。

③「基礎力診断テスト」を活用して生徒の学力を定点観測し、教科会や学力向上委員会における分析を通して「脱D3（GTZ）」を目指した学習指導方法の確立に努める。

（3）スキルアップ…社会的実践力の獲得（学び直しの先へ）

①民間事業者を活用し、グローバルスキル講座（実用英語検定講座）を開講する。

② 民間事業者を活用し、デジタルスキル講座（Word, Excel, Powerpoint）を開講する。

③ 民間事業者を活用し、コミュニケーションスキル講座（職場体験）を開講する。

3 今年度の取組目標と方策

（1）学習指導

目標：「学びの基盤」プロジェクトを活用した基礎学力の定着	
方策（下位目標）	数値目標
① 「学びの基盤」プロジェクトの推進【1-1】	・有志教員による「マナプロ」研究授業週間（年2回）
② 「基礎基本学習個別支援事業」「学力向上研究校事業」の推進【1-2】	・外部人材を活用した放課後「マナビバ」（週4日以上）
③ スクール・ポリシーに基づく教科指導【1-3】	・学校評価による満足度（80%以上） ・評定平均4.0以上（50%以上）
④ 授業規律の徹底【1-4】 （チャイム始業、チャイム終業）	・授業遅刻、授業妨害行為（私語・反抗）提出物未提出などの常習者（0人）
⑤ 習熟度別授業、少人数授業による個に応じた指導の充実【1-5】	・学校評価による満足度（80%以上） ・評定平均4.0以上（50%以上）
⑥ 主体的・対話的で深い学びの推進【1-6】	①「学びの基盤」の視点を踏まえた学習指導 ②ICTを活用した学習指導 上記視点を踏まえた授業観察（年2回）
⑦ デジタル技術を活用した教科指導（生徒の端末利活用）【1-7】	・一人一台端末やICT等を活用し、生徒の興味・関心を引き出す授業（授業観察年2回） ・オンライン学習デー（年1回）
⑧ 体験学習の充実【1-8】 ・「自分の楽しみ等」を見つけるための講座（スポーツ、文化芸術、日本文化）	・学校評価による満足度（80%以上）

・「将来のためになる技術・資格・職業観」を身につける講座	
⑨ 義務教育段階からの系統的な「学び直し」【1-9】	・「マナトレ」を活用したスタディガイダンス（毎朝10分）
⑩ 授業力向上のための教員相互授業参観【1-10】	・授業参観シート（年2枚以上提出）
⑪ 「脱D3」（GTZ）を目指した学力向上策の推進【1-11】	・学力向上委員会（年4回） ・「基礎力診断テスト」による定点観測と分析（年3回）
⑫ 特別支援教育の視点の活用（ユニバーサルデザインの推進）【1-12】	・生徒理解のための校内研修（年2回） ・通級指導（申請、認定に応じて）

（2）進路指導

目標：キャリアガイダンスの充実と進路実現に向けた支援	
方策（下位目標）	数値目標
① 関係機関との連携【2-1】 （ユースソーシャルワーカー、ユースアドバイザー、就職ナビゲーター等）	・進路決定率90%以上 ・生徒情報交換会（随時）
② 個別指導の徹底【2-2】	・三者面談（各学年：年1回以上）
③ 企業訪問、オープンキャンパス、説明会への参加促進【2-3】	・進学（一人3校以上） ・就職（8月中に受験企業決定）
④ 望ましい勤労観、職業観の育成【2-4】	・外部機関や卒業生と連携した講演会、見学会（10回）
⑤ 3年間を見据えた組織的な指導【2-5】	・キャリアガイダンス（全学年週1回） ・「高校生手帳」の活用（1・2学年） ・キャリアパスポートの完成度（90%以上）

（3）生活指導

目標：地域に認められ、社会生活の基礎となる基本的な生活習慣の確立	
方策（下位目標）	数値目標
① 「都立高校生活指導指針」に基づいた指導の徹底【3-1】	・特別指導（10件以内） ・頭髪、服装違反常習生徒（0人）
② 中途退学者の減少【3-2】	・中途退学者（15名以内）

③ セーフティ教室の充実【3-3】 (交通安全、SNS 利用等)	・自転車事故（0 件） ・自転車マナーの苦情（5 件以下）
④ 防災教育の推進【3-4】	・避難訓練（4 回） ・地域と連携した防災訓練（1 回）
⑤ いじめ総合対策に基づいた組織的な 対応【3-5】	・いじめによる中途退学、不登校（0 人）
⑥ 体罰、不適切な指導の根絶【3-6】	・体罰（0 件）、暴言（0 件） ・校内研修（年 3 回）

（4）特別活動（行事・部活動・生徒会活動）

目標：自主・自立の精神と帰属意識の涵養	
方策（下位目標）	数値目標
① 全校生徒参加行事の復活【4-1】	・生徒による学校評価の満足度（80%以上）
② 「部活動に係る活動方針」に基づく 部活動の推進【4-2】	・部活動加入率（60%）
③ 中学校や地域と連携した部活動の 推進【4-3】	・部活動体験入部（3 回） ・地域イベント等への参加（5 回以上）

（5）健康・環境指導

目標：健康的な生活習慣と豊かな心の育成	
方策（下位目標）	数値目標
① 教職員の資質向上【5-1】	・健康教育研修会、特別支援教育研修会 (年 2 回以上)
② 安全・安心な学校づくり【5-2】	・施設・設備の巡回点検（月 1 回）
③ スクールカウンセラー等による 個別指導の充実【5-3】	・1 年生全員面接（年 1 回）
④ スクールカウンセラー、学校医（精 神科医師）、巡回相談員と連携した 支援【5-4】	・随時（必要に応じて）
⑤ 健康教育の推進【5-5】	・健康教育（年 2 回） ・心の教育（年 1 回） ・薬物乱用防止教室（年 1 回）
⑥ 美化・清掃活動の徹底【5-6】	・特別清掃（年 6 回）

⑦ 生命尊重教育の推進【5-7】	・SOSの出し方に関する教育（年3回） （全員面接を含む）
⑧ 教育相談体制の充実【5-8】	・教育相談委員会（週1回）
⑨ 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づく基礎体力の向上【5-9】	・体育の授業時の体づくり運動（毎時間）
⑩ 新型コロナ感染予防対策の徹底【5-10】	・健康観察指導（状況に応じて毎日） ・校内消毒（状況に応じて毎日）

(6) 入試・募集・広報活動

目標：「都立学校魅力発信事業」の活用と応募平均倍率1.5倍以上	
方策（下位目標）	数値目標
① 「生徒の姿が見える」説明会等の工夫【6-1】	・学校見学会（年2回） ・学校説明会（年3回） ・入試個別相談会（年3回以上）
② ホームページの充実【6-2】	・ホームページ更新（200回以上）
③ 「中学生目線」の授業公開の工夫【6-3】	・授業公開（年2回）（参観者50名以上）
④ 民間事業者による「学校PR」動画の作成【6-4】	・7月、10月まで（2本）
⑤ 全教職員による中学校訪問【6-5】	・夏季休業中（125校以上）
⑥ 文化・スポーツ等特別推薦の実施【6-6】	・応募倍率（2.0倍以上）
⑦ 校長・副校長によるトップセールス【6-7】	・近隣中学校訪問（100校以上） ・近隣塾訪問（50校以上）

(7) 経営企画室の参画

目標：教職員と一体となった経営参画の推進	
方策（下位目標）	数値目標
① 経営参画ガイドラインに基づいた経営参画【7-1】	・庶務、経理、学事等の確実な執行 ・会計事故等（0件）
② エンカレッジスクールの特色を推進する適正な予算管理と執行【7-2】	・自律経営予算のセンター執行率65%

③ 授業料等の未納改善【7-3】	・授業料未納率（0%）
④ 会計年度任用職員と連携した図書室業務の推進【7-4】	・蔵書点検（年1回） ・昼休み、放課後の自習スペース開放（開館日は毎日） ・アクティブ・ラーニング、探究関連書籍（20冊）
⑤ 安全・安心な学校づくり【7-5】	・施設・設備や環境の保守改善（随時）
⑥ 適正な入学者選抜業務【7-6】	・入選事故（0件）

(8) 「開かれた学校づくり」の推進

目標：地域から認められる学校づくり ※コロナ禍の状況による	
方策（下位目標）	数値目標
① 学校運営連絡協議会の充実【8-1】	・協議会（年3回） ・評価アンケートによる肯定的な回答（80%以上）
② 地域との連携【8-2】 （家庭、地域住民、商店街等）	・地域行事への参加（年10回） ・学校案内、学校要覧等の情報発信（随時）
③ 学校施設の有効活用【8-3】	・施設開放（30団体以上） ※今年度は「中止」
④ 地域のニーズに応える公開講座【8-4】	・年間1講座（参加人数5人以上）

(9) 学校経営・組織

目標：「共育協働」による学校経営の推進	
方策（下位目標）	数値目標
① 企画調整会議の活性化【9-1】	・週1回
② 経営会議（新設）によるミドル・マネジメント機能の推進【9-2】	・週1回
③ 円滑な分掌・学年運営【9-3】	・一斉部会（月1回）
④ 適正な予算編成と執行【9-4】	・予算調整会議（年2回以上）
⑤ 透明性ある業者選定【9-5】	・業者選定会議（年4回以上）
⑥ OJT診断基準、執務ガイドラインに基づく人材育成【9-6】	・自己申告時に点検（年1回）

⑦ 学校経営計画に基づいた自己申告 目標の設定【9-7】	・自己申告面接（年3回）
⑧ 服務事故を「しない・させない・許 さない」職場づくり【9-8】	・服務事故0件 ・悉皆校内研修（年3回）
⑨ 情報セキュリティにかかわる規定 の厳守【9-9】	・個人情報紛失事故0件 ・クリーンデスク（随時）
⑩ ライフ・ワーク・バランスの推進 【9-10】	・各種会議時間（60分以内） ・閉庁日（年5日） ・定時退庁ウィーク（年2回） ・年休取得（15日以上） ・時間外労働時間（1か月45時間以内） ・育児参画支援（通年）
⑪ 職場労働環境の改善【9-11】	・安全衛生委員会（年12回）

(10)「スキルアップ推進校」事業の推進

目標：民間事業を活用した生徒の社会的実践力の向上	
方策（下位目標）	数値目標
① グローバルスキル講座の開講 （実用英語検定）【10-1】	・全校生徒の2割以上受講（90人） ・2～4級合格（30人）
② デジタルスキル講座の開講 （Word, Excel, Powerpoint）【10-3】	・全員受講 ・日本情報処理検定2～4週合格（65人）
③ コミュニケーションスキル講座の 開講【10-3】 （3年間で計3業種の職場体験）	・全校生徒の2割以上参加（90人）